



愛の手で あなたをつつむ 被害者支援

会報 ふくしまの空

発行 公益社団法人ふくしま被害者支援センター
〒960-8002 福島市森合町 14-6 第三福島トヨタビル2F
事務局 TEL&FAX 024-533-7830

『あなたは、ひとりじゃないんですよ』

『悪いのはあなたじゃない。』

勇気を出して話してみませんか。』

公益社団法人 ふくしま被害者支援センター

理 事 鈴 木 長 司

(福島県精神保健福祉士会会長)



公益社団法人ふくしま被害者支援センターの正会員、賛助会員の皆様方におかれましては、日頃より被害者支援事業をはじめとして保健、医療、福祉各般にわたり、ご理解とご協力を賜わり、厚く御礼申し上げます。また、私共の活動に心をお寄せいただき、貴いご寄附を賜りました各位に対しましても、この機会に厚く御礼申し上げます。

あの東日本大震災から、2年10か月が過ぎようとしております。「物質(形)の復興」も、まだまだですが、「こころの復興」も難しい状況が続いているのが現実であります。

当支援センターに理事として参与している福島県精神保健福祉士会は、医療機関、福祉施設、福祉サービス事業所、行政等に採用されている精神保健福祉士(ソーシャルワーカー)の団体であり、日々色々な場所で活動し、ふくしまの復興にも関わっております。

現在のふくしまの状況下で、犯罪や性暴力等の被害に遭われた方々の心情や幾何かと存じます。当支援センターは、性暴力等の被害に遭われた方々に安心して相談や支援が受けられるよう、平成25年4月1日から「SACRAふくしま(性暴力等被害救援協力機関)」を運用開始しました。被害に遭われた方の心を十分に受け止め、心に寄り添って、心身の回復への活動ができるように支援しております。

去る11月9日には、県文化センターにて『支援の輪を広げるつどい2013』が開催されました。(公社)みやぎ被害者支援センターの理事でもありますシンガーソングライターのさとう宗幸氏の『ふれあいコンサート』、自らが犯罪被害者遺族の山内久子氏の基調講演、福島学院大学ハンドベルクワイヤ部による『ハンドベル演奏』がありました。誠にありがとうございました。当日は、250名を超える皆様に参加され、被害に遭われている方の心情を改めて理解していただき、自分ができることは何かを考えていただく良い機会になったのだと思います。この『被害者に優しいふくしまの風運動』も5周年を迎えており、関係機関の方々のご助力にて着実に浸透してきていると思われまます。

公益社団法人ふくしま被害者支援センターは、被害に遭われた方々にとって、ふくしま県民にとって、温かく包んでくれる、安心できる場所になれるよう、関係各位が皆様方と一緒に支援活動に取り組んで参りたいと存じます。

皆様方のより一層のご支援、ご支持、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

SACRA

「SACRAふくしま」推進状況

1 支援活動の概要

性暴力等被害に関する受理件数は、昨年末現在で20件の通報があり、73回の支援活動を行いました。活動は、電話相談、面接相談のほか警察署・弁護士・病院・カウンセリングの付添支援などの支援活動を行ってまいりました。

「SACRAホットライン(性暴力等相談専用電話)」は、平日午前10時から午後4時まで開設しているほか、月曜日、水曜日及び金曜日の3日間は午後8時まで運用しております。新たに夜間帯の電話相談員の確保が必要となり、限られたボランティア活動員をフル回転しての支援活動を行っております。

この「SACRAふくしま」は、性暴力等に遭われた方の支援に当たるネットワークです。支援は秘密を守り、無料で提供しておりますので悲惨な被害をうけてお困りの方が近くにおられましたら、是非ご相談されるようおすすめください。

2 本制度周知のための活動

昨年4月から県産婦人科医会、県警察との三者の連携・協力により運用を開始しました性暴力等の被害に遭われた方を支援するネットワーク「SACRAふくしま」は、9ヶ月を経過しました。

本ネットワークを広く県民の皆様へ周知していただくため、ホームページに「SACRAふくしま」コーナーを立ち上げるとともに、新聞、ポスター、チラシ等による広報のほか、「犯罪被害者支援の日」及び「犯罪被害者週間」には、

「SACRAふくしま」広報紙面との両面刷りのチラシを5,000枚作成・配布しました。更に、11月9日開催の「支援の輪を広げるつどい」におきましても同様に広報活動を行っております。

また、「SACRAふくしま」協力病院としての公表することを了解していただいた40医療機関を明記したチラシ6,000枚を作成、県内の100余りの産婦人科医療機関に常備し、来院者に対する周知を図っています。

SACRA ふくしま

性暴力等被害者支援協力機関
Sexual Assault Crisis Response Association

「SACRA(さくら)ふくしま」は、ふくしま被害者支援センター、警察、弁護士、産婦人科医会、産婦人科医療機関の連携・協力により、性暴力等の被害に遭われた方を支援するネットワークです。

当センターは、犯罪等の被害者及びその家族に対して
電話相談 直接相談
病院・警察等への付き添い
等を無料で行っています。

あなたの意思を尊重します。
不問不答は、あなたの意思を尊重するものです。

女性相談員が対応します。
私たちは、あなたのこれから一緒に考えたいです。

あなたは決して悪くありません。
ひとりで抱えすぎず、お話しください。

相談専用 SACRAホットライン
024-533-3940
09-08 10:00 ~ 20:00
09-08 10:00 ~ 16:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)

(公社)ふくしま被害者支援センター・福島県産婦人科医会・福島県警察

SACRA ふくしま 協力病院一覧 (25.10.1 現在)

「SACRA ふくしま」には、下記の医療機関の登録にご協力いただいております。

1	福島県立総合医療センター	福島県立総合医療センター	024-554-0303
2	福島県立総合医療センター	福島県立総合医療センター	024-545-0803
3	福島県立総合医療センター	福島県立総合医療センター	024-548-2525
4	福島県立総合医療センター	福島県立総合医療センター	024-533-2121
5	福島県立総合医療センター	福島県立総合医療センター	024-533-1132
6	福島県立総合医療センター	福島県立総合医療センター	024-526-0300
7	福島県立総合医療センター	福島県立総合医療センター	024-533-1103
8	福島県立総合医療センター	福島県立総合医療センター	024-554-2123
9	福島県立総合医療センター	福島県立総合医療センター	024-551-0805
10	福島県立総合医療センター	福島県立総合医療センター	024-525-4388
11	福島県立総合医療センター	福島県立総合医療センター	024-545-3500
12	福島県立総合医療センター	福島県立総合医療センター	024-533-2721
13	福島県立総合医療センター	福島県立総合医療センター	024-341-1522
14	福島県立総合医療センター	福島県立総合医療センター	024-62-3000
15	福島県立総合医療センター	福島県立総合医療センター	024-923-3711
16	福島県立総合医療センター	福島県立総合医療センター	024-923-3711
17	福島県立総合医療センター	福島県立総合医療センター	024-945-8080
18	福島県立総合医療センター	福島県立総合医療センター	024-932-1637
19	福島県立総合医療センター	福島県立総合医療センター	024-922-5769
20	福島県立総合医療センター	福島県立総合医療センター	024-932-6563
21	福島県立総合医療センター	福島県立総合医療センター	024-925-1188
22	福島県立総合医療センター	福島県立総合医療センター	024-922-1155
23	福島県立総合医療センター	福島県立総合医療センター	024-956-0303
24	福島県立総合医療センター	福島県立総合医療センター	024-785-2016
25	福島県立総合医療センター	福島県立総合医療センター	024-62-4355
26	福島県立総合医療センター	福島県立総合医療センター	024-76-1565
27	福島県立総合医療センター	福島県立総合医療センター	024-22-2211
28	福島県立総合医療センター	福島県立総合医療センター	024-36-5051
29	福島県立総合医療センター	福島県立総合医療センター	024-25-1515
30	福島県立総合医療センター	福島県立総合医療センター	024-37-7851
31	福島県立総合医療センター	福島県立総合医療センター	0241-22-2111
32	福島県立総合医療センター	福島県立総合医療センター	0244-22-3181
33	福島県立総合医療センター	福島県立総合医療センター	0246-79-0000
34	福島県立総合医療センター	福島県立総合医療センター	0246-45-4900
35	福島県立総合医療センター	福島県立総合医療センター	0246-58-8010
36	福島県立総合医療センター	福島県立総合医療センター	0246-92-4578
37	福島県立総合医療センター	福島県立総合医療センター	0246-25-3541
38	福島県立総合医療センター	福島県立総合医療センター	0246-21-2351
39	福島県立総合医療センター	福島県立総合医療センター	0246-42-4567
40	福島県立総合医療センター	福島県立総合医療センター	024547-1290

※診療時間表は、それぞれの診療機関にお問い合わせください。

3 支援員のレベルアップ

支援を担当する相談員等の知識・技能の向上については、これまで2ヶ月に1度開催している全体研修会において、事例検討のほか大学教授、県警察職員等をお招きしての実践的講義を受けて参りました。また、支援員の更なるレベルアップを図るために昨年9月から、全体研修会とは別に毎月1回、事例検討会を継続開催しております。

親と子のワークショップを開催 「もしも、子どもが犯罪被害にあったら」

このワークショップは全国被害者ネットワークがファイザープログラムの助成を受けて、全国5ヵ所（福島・愛知・兵庫・埼玉・東京）で開催しました。当センターでは全国のトップを切って8月1日に、福島市「子どもの夢を育む施設“こむこむ”」において、小学4～6年生11人の元気な子どもたちと、その保護者10人の参加を得て実施しました。

子どもが犯罪被害にあったとき、保護者の適切な対応が回復に強く影響します。犯罪被害にあったとき、子どもの心と体にどういう反応が起こるのか、そんなとき子どもにどう接すればいいのか、絵本やゲームで楽しく学びました。

子ども向けのカリキュラムは、当センター支援員が手作りしたパズル（他県会場でも使われ大変好評でした）やクイズを使って、犯罪というテーマに萎縮することがないように、楽しく学びました。あなたにとって安全な場所は？との問いには、「押入れ」「お風呂」の他、「お母さんのそば」「家族のいる所」との答えがありました。

お母さんたちは、酒井副理事長と支援員の指導でロールプレイを行いました。被害にあったとき子どもがしっかりケアされることが大切であること。また、保護者も気持ちが動揺することがあり、保護者もサポートを受ける必要があることを学びました。お母さんたちも真剣に取り組み、「子どもの辛い気持ちが良くわかった。」と、涙ぐむお母さんの姿もあり、夏休みに親子がゆっくり向き合う時間となったようです。



参加者の感想

児童

- いろいろなためになることやクイズなど楽しかったです。また、機会があったらお話を聞きたいです。
- 今日からは、自分で辛い気持ちを上手にコントロールしよう、考え方を変わると気持ちはどう変わるかな？と考えるようにしようと思いました。

保護者

- 子どもと犯罪について知識が深まりました。何も知らないで犯罪に遭ってしまったら、子どもを傷つけていたと思うと良い体験になりました。
- 子どもの辛さを表出しやすいような環境・態度でいられる親でいたいと思う。

被害者支援ボランティア活動員を募集しています！

募集期間：平成 26 年 1 月 6 日（月）～ 2 月 28 日（金）

詳しくは「ボランティア活動員募集係」（024-533-7830）まで
お問い合わせください

街頭広報啓発活動

当センターでは、毎年「犯罪被害者支援の日(10/3)」と「犯罪被害者週間(11/25～12/1)」には、県警察、警察署などの協力を得てJR福島駅前広場やJR郡山駅前広場において、被害者支援について県民の皆様の理解を深めていただくことを目的とした街頭活動を実施しております。本年度は、昨年4月に運用を開始しました「SACRAふくしま」の周知を図ることを加えて活動を行いました。

10月3日の「犯罪被害者支援の日」は、JR福島駅東口広場において県警察、福島警察署との合同による活動を行いました。また、「犯罪被害者週間」には、その前日である11月24日(日)の「被害者支援キャンペーン」を皮切りに、25日(月)、28日(木)、30日(土)にJR福島駅東口広場で、27日(水)はJR郡山駅前広場においてそれぞれ街頭活動を行いました。特に11月24日(日)は、毎年ご協力を頂いております福島大学吹奏楽団の演奏をバックに、県警察被害者支援室及び福島警察署との合同による「被害者支援キャンペーン」活動を行いました。秋晴れの中、福島大学吹奏楽団の美しい演奏に加え、今回の活動から取り入れました五色の風船の効果もあり、盛況の内に活動を終えることが出来ました。

なお、併せて全国被害者支援ネットワークが提唱する「全国被害者支援基金(仮称)」設立に向けた街頭募金活動を行いました結果、77,587円の浄財が寄せられました。

当センターの活動に賛同され、貴いご寄付を賜りました皆様に厚く御礼を申し上げます。



「被害者支援と広報」

「ふくしま被害者支援センター」は発足後6年となるが、県民の皆様には未だ十分に周知されていないのが実情である。毎年11月25日から12月1日までは「犯罪被害者週間」として、センターのPRや一般の人々にも被害者支援をお願いすることをメインに広報活動を行っている。さらにもう一つの目的は、「全国被害者支援基金」設立のための募金であるが、なかなか思うように集まらない。

今年は、これから東京に帰るところだかという男性が一万円を募金箱に入れてくれた。以前には福島に旅行に来たという方が協力してくれたこともある。この人達は「被害者支援」の必要性を理解されている方々だと思う。今回は、三歳ぐらいの女の子が小さな財布から一円玉を入れてくれた。金額ではなくその気持ちがうれしかった。

広報活動終了後に「チラシを見たので…」と相談電話があった。広報の成果を実感するとともに、今後の支援充実と日常の広報活動の強化を図る必要性を痛感するこの頃である。

(相談員:60歳代女性)

寄付型自動販売機の設置拡大事業5カ年計画：初年度30台設置目標

当センターでは、平成25年度を初年度とする平成29年度までの5年間で、合わせて200台の寄付型自動販売機の整備を目標に設置拡大事業を推進しています。

寄付型自動販売機は、

- 設置いただいた企業・団体の社会貢献活動によるイメージアップとなります
- 利用者の被害者支援活動への関心や意識を向上させます
- オリジナルラッピングデザインにより、被害者支援の広告塔となります
- 安定した寄付金を確保します

などを目的として進めております。

これまで、当センター正会員を始め県内の市町村、警察署、関係機関団体等への協力を求める訪問活動のほか、イベント開催、各種講演会等において普及宣伝活動を行ってまいりました。昨年末までに郡山市内、会津美里町内、会津若松市内、白河市内等の法人・個人から8台の設置申し出を受けておりますが、初年度の設置目標である30台の整備を目指し、更に訪問活動を強化してまいりたいと考えております。

寄付型自動販売機の設置に興味をお持ちの方、法人・団体、個人を問いません。是非ご連絡下さい。犯罪被害者を支援する活動のパートナーになってください!!



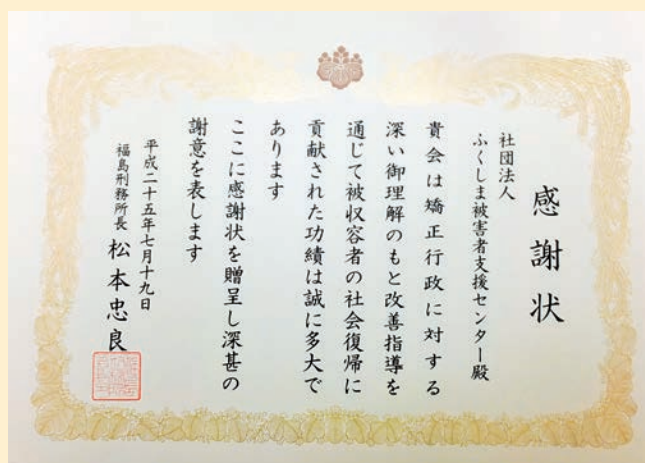
～郡山市専門学校の設置状況～

被害者支援活動の一環としての「しょく罪指導」

福島刑務所長から、入所中の男性収容者に対する講話をとの要請があり、平成22年4月から講話を行っておりますが、その後、福島刑務支所長からも同様の要請があり、女性収容者に対しても講話を行っております。

講話の内容は、犯罪被害者、遺族等が受ける精神的・経済的被害など被害者等の実情の理解を深めさせるものとして、これまで被害者支援活動の一環として継続・実施してまいりましたが、この度、被収容者の改善指導に貢献があったとして、感謝状(平成25年7月19日付)をいただきました。なお、講師は、廣木専務理事と保護司でもあるM相談員が担当しています。

また、福島保護観察所長からも同趣旨の要請があり、廣木専務理事が講師となり、平成23年10月から福島自立更生センター入所者に対する講話を行っております。



秋期全国研修会参加報告

日々精進を忘れずに

東京で開催された「秋期全国研修会」に参加してきました。

私の学んだ「犯罪被害者支援の倫理」では、「被害にあった後、どのような問題に苦悩したか」という被害者遺族の方へのアンケート調査の結果について説明がありました。日常生活や心身への影響、刑事手続き上の負担、様々な二次被害など想像以上に幅広く深いものだと知りました。

そして、自己回復力を削がないで適切な支援をしていくことは、辛い気持ちに寄り添うだけでなく、知識を身につけたり自己研鑽も大切なのだと思いました。

自分の考えの甘さ、未熟さを感じ、背筋がピンと伸びたように思えた私ですが、あれから2ヶ月……。まだまだ変わらない自分に気づきます。

研修会で学んだことを無駄にしないよう、日々精進しなければと痛感しています。

(支援員:50歳代女性)

北海道東北ブロック研修会参加報告

仲間たちの助言と刺激

青森で行われた「北海道・東北ブロック研修会」に参加してきました。

ロールプレイ、事例検討、関連法令の講義等2日間にわたって行われる研修は、いつものことながら、大変勉強になります。語彙の少なさ、考えの至らなさ。ロールプレイで返ってくる思わぬ反応による様々な気付き。まさに自分の未熟さとの戦いです。夜の懇親会も他県の支援団体との貴重な情報交換の場となります。飲食もそこそこに、今日行ったプログラムについて、支援団体の現状について、活動する中で困っていること、様々な情報が飛び交いますが、どのような問いを投げかけても、何かしらのヒントをもらえる心強さ。探していた答を見つけることもしばしばです。本当にハードですが、自信を持って電話の前に座り、より良い支援を届けるために、仲間たちからの助言と刺激をもらえる研修会は、私たち支援員にとってかけがえのない時間であることを再認識した2日間でした。

(相談員:50歳代女性)

「命の大切さを学ぶ教室」作文コンクール

県警察との共催事業である「ふくしまの風運動」の一環として実施しております「命の大切さを学ぶ教室」の作文コンクールが開催されました。本年度は、中学校12校・57編、高等学校2校・6編の応募があり、審査の結果7作品が入選、警察本部長賞とセンター理事長賞に入選されました2作品が本県代表として全国コンクールに送られました。

なお、昨年12月17日、当センター理事長賞に入選されました湯本一中1年の伊藤綾さんの表彰状の伝達を行ってまいりました。理事長賞に入選されました伊藤綾さんの作品を紹介いたします。

入選されました7名の皆様には、副賞として当センターから図書券を贈呈いたしました。

「命の大切さを学んで」

いわき市立湯本第一中学校 1年 伊藤 綾

事件や事故は一瞬のうちに幸せな家庭を崩壊させ、家族を悲しみのどん底に突き落としてしまう。「命の大切さを学ぶ教室」で、長崎の少女殺害事件の被害者の父親が書いた手記を聞き、そう思った。この事件は、今から十年程前に起こったが、残された家族が今でも深い悲しみの中にあることが伝わってきた。

家に帰って、この教室で学んだことを両親に話した。とても痛ましい事件だったと両親も記憶していた。小学校の教師をしている母は、当時同年代の児童を担任していたので、学校の校舎の中で子ども同士の殺害事件が起こったことにショックを受け、命を大切にすることを育てていかなければと思ったそうだ。

事件からしばらくして新聞社に寄せられた被害者の父親の手記の中に、「朝慌ただしく身支度をしていて、『行きます。』と言う娘の顔を見ないで送り出したことが悔やまれる。」という内容の文章が書かれていたそうだ。父の話によれば、事件の被害にあった家族は、深い悲しみの中で、自分がもつとしてやれることはなかったのだろうかという自責の念に苦しむことがあるのだそうだ。

この事件の背景には、友人関係の行き違いがあったようだ。私たちの年頃になれば、誰でも大なり小なり友人関係の悩みを持った経験があると思う。ちょっとした気持ちのすれ違いから気まずい思いをしたこともあるだろう。友だちに嫌なことを言われたりされたりしたからという理由で、相手の命を奪おうと考えることは、あまりにも身勝手ではないか。犯罪を犯した少女に、自分の行動がどのようなことを引き起こすことになるのかという想像力があつたなら、友だちを思いやり大切にすることがあつたなら、このような事件は起こらなかったのではないかと残念に思う。事件を起こした後少女は、謝れるなら会って謝りたいと話したそうだ。失われた命は二度と戻ることはないということにもっと早く気づいていれば。

テレビや新聞のニュースを見ると、残念なことに、毎日のように事件や事故のニュースが報道されている。誰もが幸せに暮らしたいと願っているはずなのに、事件や事故の陰で、どれほど多くの人々が悲しんでいるだろう。「命の大切さを学ぶ教室」を通して、命というのは、一つしかないかけがえのないものであるということに改めて考えることができた。だからこそ、自分の命、家族の命、友だちの命、すべての命を大切にしていきたい。

これからの私たちに必要なことは、命はかけがえのないものであるという認識を持ち、お互いを大切な存在として尊重し合うことだと思う。誰もが安心して幸せに暮らせる社会をつくろうという思いを、一人ひとりがしっかりと持っていきたいと思う。

～皆様方の温かいご支援に支えられて～

次の方々から賛助会員等としての会費、ご寄付を頂きました。
心から御礼を申し上げます。当センターの活動は、皆様方の温かいご支援に支えられております。今後とも変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

今期賛助会員等のご紹介(平成25年8月1日から平成25年12月31日まで) (順不同・敬称略)

個人											
福島地区		酒井 芳子	奥田 正彦	酒井 久一	高橋ふく子	広川 康明	藤原 正子	加藤 邦夫	佐々木 賢	高橋 和七	
舟山 毅	朝倉 雅夫	加藤 徹	佐藤 厚子	田代 均	本名まゆみ	朝倉 美菜	菅藤紀久夫	佐藤 浩一	東原代里子		
幕田 武	阿部 明弘	菅野 晴隆	佐藤 光司	土屋美智子	緑川 佳樹	阿部 弘敬	菅野 浩司	佐藤 敬	寺島 正		
武藤士津夫	荒井 俊直	菊池 忠	佐藤 雅彦	西戸 良平	安田 弘二	石井 敬	黒津 康司	佐野千代子	二瓶辰右エ門		
渡邊 和也	今泉 満臣	小泉美ノ助	鳴原 厚	野地 信裕	渡部 純夫	岩渕 敬	小林 瑞秀	菅野 昭弘	蓮沼 真一		
渡部 学	遠藤 昭彦	齋藤 修	鈴木美紀夫	長谷川栄治	馬場 茂雄	遠藤 孝	齋藤 昇	関根 隆	齋藤 房幸		
高野 智典	大平 洋子	鹿野 孝次									
福島北地区		井上 俊彦	近藤 正	佐藤 実	高橋 雄次	蓬田 一夫	臼井 君江	佐々木敏眞	佐藤 洋一	畠 信七	
松本 圭人	大泉美代子	佐々木昇美	佐藤 律子	緑川 悦夫	緑川 静	金成 匡以	佐藤 弘明	川口 洋司	川口 容子		
伊達地区		遠藤 見成	鈴木 清高	湯田 健一	横山 弘幸	遠藤 道雄	佐藤 昌知	高橋 義広			
二本松地区		菅野 将尚	齋藤 喜市	高橋 幸三							
郡山地区		青池 文彦	児玉 賢嗣	鈴木 裕子	武田 憲二	蓬田 健郎	浅井 嗣夫	斎藤 好晴	善方 八郎	増子 敬	
渡邊 節子	小池 葉子	齋藤 哲司	鈴木 千葉	昇							
郡山北地区		遠藤 昭一	鈴木 昭佐								
須賀川地区		遠藤 栄作	國分 廣幸	高木 茂保	廣田 哲夫	吉田 佳生	小野口拓夫	国分 宏子	半澤 晃	山口 横吾	
白河地区		白石田俊幸	東原 康文	宮本多可夫	吉川 幸雄	今井 久					
石川地区		佐川 保博	三瓶 陽子	田子 靖子	橋本 亀	長谷川百合子					

棚倉地区	金澤 博信 近藤 勇一	田村地区	佐藤 道拓
会津若松地区	伊藤 博 鈴木 桂子 長峯 浩 吉田 幸代 穴澤 啓 遠藤 恒友 高瀬 淳		
猪苗代地区	桑原 大 鈴木 長年 津田 昌泰	喜多方地区	加藤 勇一 内藤 恒久 星 宗治
会津坂下地区	佐藤 善則	南会津地区	君島 富子
いわき中央地区 中花 光一	吾妻 一照 合津 長治 菅原 裕介 根本 文弘 矢野 愼 大場 純義 白岩 隆文 須藤 雪子 矢内 忠 小野 開司		
いわき東地区	石田 冴子 熊田 徳雄 白岩 陽子	南相馬地区	青田 勝則 亀井 勝美
法人・団体			
福島地区	(一財)福島県自動車会議所 (一社)福島県自動車整備振興会 福島県自動車販売店協会 (公益)福島県暴力追放運動推進センター 川俣地区安全運転管理者協会 富士印刷(有) (一社)福島県安全運転管理者協会	(一社)福島県自家用自動車協会 福島県警察機動捜査隊 親睦会 (株)東邦銀行 (株)日産サテリオ福島 福島テレビ(株) 安全運転管理川俣地区事業主会 (公社)福島県バス協会	東北電力(株)福島支店 (一社)福島県歯科医師会 (株)ダイユーエイト 福島県レンタカー協会 福島県商工会議所連合会 (社)福島県医師会 福島県民共済生活協同組合
福島北地区	(株)テーエムシー 宗教法人 西根神社 陽光社印刷(株) 福島県農業協同組合中央会	渋谷建設(株) (有)桜井運送 寿建設株式会社	(有)後藤設備 (公社)福島県トラック協会 マエサン東北農材(株) 協同組合県北地区浄化槽管理協会 福興産業(株) 広川行政書士事務所
伊達地区	医療法人敬仁会中野病院	伊達物産(株)	日野金属産業(株)
二本松地区	(有)昭和自動車整備工場		
郡山地区	(株)西部開発 県南祭礼商業協議会	(株)つばめエイジェンシー 福島県経営者協会連合会	ゼビオ(株) 医療法人慈主会すがのクリニック
郡山北地区	(株)ナックス 本宮地区金融防犯協会	東和(株) 本宮地区防犯協会連合会	本宮地区出身警察官父兄会 宝化成機器(株)
須賀川地区	三瓶重機建設(株) すかがわ岩瀬農業協同組合	神田産業(株) 福陽ガス(株)	須賀川地区警察官友の会 (株)南部自動車学校
白河地区	安全運転管理白河事業主会 白河地区安全運転管理者協会 福菱工業(株)	木村可鍛(株) 永野土木建設(株)	東白商事(株) (株)高砂ホンダモーター (株)兼子組 白河地区交通安全協会
棚倉地区	(株)シーズ 藤田建設工業(株)	塙厚生病院	森本建設(株) (株)星電設
田村地区	(株)鈴船建設 医療法人慶信會石塚医院	(有)やわらぎ乃湯 小野地区警友会	(社)田村医師会 田村地区警察官友の会
会津若松地区	会津オリンパス(株) 秋山ユアビス建設株式会社 丸果会津青果(株) 会津美里地区防犯協会	会津薬品産業(株) なるせとみこレディースクリニック 会津美里地区金融機関防犯協会 佐藤内科小児科医院	(社)会津若松医師会 会津商工信用組合 (株)小野屋漆器店 会津自動車工業(株) 医療法人晶晴会 三菱伸銅(株)若松製作所
猪苗代地区	安全運転管理猪苗代地区事業主会 関東水力工事(株)会津支社	榮川酒造(株) 猪苗代地区交通三団体	(有)阿部重郎商店 猪苗代地区交通安全協会 猪苗代地区安全運転管理者協会
喜多方地区	喜多方地区金融防犯協会	佐久間建設工業(株)	
会津坂下地区	会津坂下地区安協・安管協・事業主会	会津坂下地区企業安全連絡会	八二醸造(有)
南会津地区	(株)菊地商会	南会津警察署警察官友の会	南会津自家用自動車組合
いわき中央地区	(株)大海商事	常磐共同ガス(株)	盛英自動車(株) (株)日本海水
いわき東地区	いわき小名浜ロータリークラブ (株)大橋 福浜大一建設(株)	小名浜製錬(株)小名浜製錬所 日本化成(株)小名浜工場 いわき東地区みかじめ料排除協議会	東邦重鉛(株)小名浜製錬所 いわき東警察官友の会 磐城通運(株)小名浜支店 第一三共プロファーマ(株)小名浜工場
いわき南地区	岩電機工事(株) 常磐共同火力(株)勿来発電所	社会福祉法人ハートフルなこそ	国際ロータリークラブ第2530地区ガバナー (株)福陽自動車教習所
南相馬地区	伊藤冷機工業(株) 原町港湾運送(株)	東北建設(株) (有)西武商事	丸三製紙(株) 庄司建設工業(株) (株)福建コンサルタント
双葉地区	(株)東芝	日立GEニュークリア・エナジー (株)福島第2事務所	
宮城県	東日本旅客鉄道(株)総務部総務グループ		

寄付金の贈呈式

次の法人・団体様からご寄付をいただきました。

- 10月21日、耶麻郡猪苗代町「猪苗代地区交通三団体(交通安全協会・安全運転管理者協会・安全運転管理事業主会)」様から20万円のご寄付をいただきました。
- 11月5日、福島市「福島県民共済生活協同組合」様から50万円のご寄付をいただきました。
- 11月29日、福島市「一般財団法人福島県自動車会議所」様から20万円のご寄付をいただきました。
- 12月10日、二本松市岳温泉「桜酒販」様から2万円のご寄付をいただきました。
- 12月19日、郡山市「福島県中央遊技業協同組合」、「郡山遊技場組合」様から併せて20万円のご寄付をいただきました。

心より感謝を申しあげます。寄せられました寄付金は、犯罪や事故の被害者、そのご家族・ご遺族の方々への精神的支援や病院、裁判所などへの付添支援等、被害の回復につながる支援活動を行うための貴重な財源として活用させていただきます。

どうしていいか分からず悩んでいるなら 話をしてみませんか。

犯罪は風化しても、犯罪被害者のつらい記憶は風化することはありません。その心の傷の回復には、周囲の人々の理解と共感、そして温かく見守ってあげることが大切です。

ひとりで悩まずご相談下さい。

ふくしま被害者支援センターでは

- ◇電話相談・面接相談を行っています。
- ◇裁判所・警察・病院等への付き添いをします。
- ◇犯罪被害者等給付金の申請のアドバイスを行います。
- ◇弁護士会等の関係機関、団体と連携した支援を行います。
- ◇被害者支援の幅広い広報・啓発活動を行っています。
- ◇被害者同士の交流の場(自助グループ)を提供しています。

電話相談・支援受付時間

月曜日から金曜日：午前10時～午後4時
(祝日、年末年始を除きます。)のほか
「SACRAふくしま」は、月曜・水曜・金曜：
午後8時まで電話相談ができます。
なお、面接相談は予約が必要です。

犯罪や事故の被害に関する相談電話

024-533-9600

SACRAふくしま(性暴力等被害相談電話)

024-533-3940

相談は無料です。秘密は厳守します。

賛助会員募集中

当センターは、皆様の会費で寄付により運営されています。

年会費 ○ 個人…1口 2,000円より ○ 法人・団体…1口 10,000円より

福島県公安委員会指定「犯罪被害者等早期援助団体」(公社)ふくしま被害者支援センター

〒960-8002 福島市森合町14-6 第二福島トヨタビル2F(福島中央郵便局向かい) TEL/FAX 024-533-7830

●当センターは、公益社団法人です。会費を納めたり、寄付をした場合は、税法上の優遇措置があります。

※なお、「ご寄付」については、金額は問いません。

愛の手で あなたをつつむ 被害者支援

11月3日「文化の日」は今年一番の快晴となりました。秋晴れの中、支援員有志10名が参加し、紅葉に包まれた3時間余りの「霊山」登山を満喫しました。「霊山」は、日本百景及び福島県の「うつくしま百名山」に指定されているほか、南北朝時代に北畠顕家が築いた重要な城跡遺構として国の史跡にも指定されています。

今回の「霊山」登山は、山案内人であるW支援員からの提案により実現しましたが、「霊山」特有の岩肌に紅葉と常緑樹の緑が映える風景の中での登山は、私たちに大きな感動を与えてくれました。読者の皆さんにも是非体感していただきたいと思います。登山後は、W支援員の別荘(霊山の実家)において芋煮会を開催しました。準備はW支援員の奥さんと登山に参加しなかった5名の支援員の皆さんに準備をお願いいたしました。

東日本大震災発生から3年になろうとしておりますが、県民の皆様の生活もほぼ平穏を取り戻してきたほか、昨年4月に運用を開始しました「SACRAふくしま」等により、これまでの支援活動が質的にも量的にも大きく変化している中での登山は、リフレッシュを図るのに極めて有意義な一日となりました。特に、登山中に食べた「さるなし」の実とW支援員が作ったオリジナルの「焼き肉たれ」は絶品でした。